令和5年度　　長野県大町岳陽高等学校　学校自己評価

| | |
|---|---|
| 教育目標 | 1　進取の気性に富み、豊かな心と健やかな身体を持った人間を育成する。 |
| | 2　真理を深く追求し、豊かな創造力と力強い実践力を持った人間を育成する。 |
| | 3　国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解するとともに、その将来を担う人間を育成する。 |
| 重点目標 | ①　全校登山やアジアアフリカ難民支援運動など岳陽の学びの4本柱を通じて、主体的に生きる生徒を育てる。 |
| | ②　基礎学力の向上を図るとともに、様々な進路選択に対応する学びを保証する。 |
| | ③　多様な他者を受け入れ、互いを尊重する豊かな心を育み、いじめのない安心安全な学校をつくる。 |

| | | | 具体的目標 | 分掌 | 達成状況 | 達成度 | 課題・改善策 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | 学習指導・進路指導 | 重点目標① | 日々の学習を含め、土曜補習や模試などに主体的に取り組む姿勢を支援し、自らの進路実現に向けて適切な情報を提供する | 進路指導<br>学習指導 | 模試は、各学年は主体的に取り組むことができた。土曜補習はターム制で希望をとり実施した。夏季補習は午後に実施した。<br>探究活動のテーマ設定と並行して，生徒自らの自己理解やライフプランなどのキャリア教育的な要素を織り込むことで，進路選択との融合を効果的に図れる可能性があると思われるが，現状では果たせていない。 | B | 土曜補習、夏季補習、模試については、全職員の議論を踏まえて内容については改善改良していきたい。<br>1学年の科目選択前にこのような活動をLHR等を利用して織り込みたいと考えるが，進路指導との擦り合わせが必要である。 | A |
| | | | 進路探究や自主性、社会性を養う集団での体験的な学習に対する取り組みを支援する。 | 2学年 | 研修旅行では、大学や企業見学を通して、おのおのの進路への意識を高めることができた。全体的に良い研修ができた。 | A | 事前学習の時間をもう少し多く取れれば良かった。特に訪問大学・企業調べの時間を多く取れるような計画が必要である。 | |
| | | | 英語スピーチコンテストを通して、相手にわかりやすく効果的に伝わるよう、自分の考えを表現する能力を身につけられるよう支援する。 | 英語科 | 昨年度，英語スピーチコンテストに参加した生徒の中には，その内容を総合型選抜に活用する者も見られた。興味関心を追究した成果の1つといえるだろう。 | A | 何を題材として，どのような構成でどのように表現するかは，一教科の枠組みだけにはとどまらない活動といえるが，ひとまず教科内で研究を進めたい。 | |
| | | | 海外留学生との交流を通し、国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解する。 | 教務 | 7月まで交換留学生が在籍していた。また、オーストリア・インスブルック市の高校と交流を行い、生徒自ら準備等を行った。 | A | 時差の関係もあり、海外の学校との交流は難しい面があり、今後研究する必要がある。 | |
| | | | 故郷の山に登り、故郷の山をを知ることで故郷を愛する心を育む。また友と助け合い励まし合いながら山に登ることで、仲間意識を高める。 | 登山委員会 | 泊まりの日程では、全コースで全校登山を実施できた。生徒の感想を見ても、左記の目標を予想以上に達成できたものと考える。 | A | 安全管理の徹底。具体的にはできるだけ全コースに医師看護師を配置する。 | |
| | | | アジアアフリカ難民支援運動を通して、地域の課題や国際的な課題について考える支援をする。 | 各学年 | 意欲的に取り組み、意義ある活動になった。講演会ではアジアフ活動の歴史や経緯を学ぶことができた。 | A | 事前事後の学習をさらに深めることができると良い。 | |
| | | | 探究活動を通した主体的な学びによって、実社会への関心を深める機会を支援する。 | 学習指導 | 昨年度までの実績に基づいて，1・2年生合同で報告会を行うことにより，生徒相互に刺激を与え合いながら社会や自然の諸事象への関心を高めることができた。 | A | 探究の基礎を固めながら，内容の質的向上を目指したい。テーマによっては校外でのフィールドワークや外部との連携が必要である。また，教員の指導体制をいかに構築するかも課題である。 | |
| | | 重点目標② | 校内の情報センターとして、教科横断的・協働的に展開される生徒の学習支援をする。 | 図書館 | 探究の授業において、多くの生徒が図書館を利用をし、資料を活用していた。さまざまな教科の授業においても、図書館資料を活用している様子が多く見られた。 | A | 探求授業の中で、より多くの生徒が図書館を利用し、「書籍」を活用できるようにしたい。そのために、担当教諭から、どのような資料が必要か事前にヒアリングをして、資料の用意をしたり、図書館を利用してもらえるよう促していきたい。 | B |
| | | | 思考力・判断力・表現力を育てるために主体的・対話的な学習活動の研究、推進をする。 | 各教科 | グループ活動や情報端末を適宜利用し、個人活動としても展示や発表などを通して主体的に取り組めるよう支援ができた。また、学習を通して、生徒一人ひとりが公共空間で市民として生きる素養を習得させるよう務めることができた。 | B | 授業時間内だけではなく家庭学習へつなげることや、タブレットなどのICTの活用を更に研究し発表の機会などを設定することで、学習したことを更に深める必要がある。また、評価の基準を明確にし生徒のモチベーションを維持させる必要がある。 | |
| | | | 生徒一人ひとりが社会との関わりを意識した進路目標を設定し、その実現に向ける取り組みを支援する。 | 各教科<br>各学年 | 進路が明確ではない時期の生徒には、教科指導の中では難し面もあるが、進路学習や面談週間を通し、生徒個々に適切な助言ができた。 | B | 新教育課程や入試への対応や多様化した進路にいかに対応していくかが課題である。また、教科指導の中でできる支援を研究する必要がある。 | |
| | | | ICT機器を利用した進路情報の提供を心掛け、進路に関するデータの分析や集計に有効に利用する | 進路指導<br>学習指導 | Googleフォームを利用した全学年の進路希望調査を実施した。分析や情報公開についてはまだまだ検討の余地がある | B | 各学年Googleクラスルームを積極利用して情報発信に有効利用していきたい。学校通じての情報発信も心掛けたい。 | |
| | | | 探究的な学習を通じて主体的に取り組む姿勢を養い、自らの進路実現に役立てる | | 推薦入試が増加している中、探究活動が進路実現に結びつく事例は個々には見られるが少数である。1学年「総合的な探究の時間」Division2のガイダンスにおいて，1つの試みを行った。 | B | 意識の高低、学力の高低の激しい生徒が多い中での学校として探究活動と進路選択を体系的に融合させる方策の検討と実施が今後の課題である。 | |

令和5年度　　長野県大町岳陽高等学校　学校自己評価

| | | | 具体的目標 | 分掌 | 達成状況 | 達成度 | 課題・改善策 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | 生徒会活動 | 重点目標③ | 学校行事を通して、他者と主体的、協働的に学ぶ姿勢を育む。 | 各学年 | 文化祭をはじめ、各行時を通して概ね達成できた。 | A | 活動に参加できない生徒が少数ではあるがいる。そうした生徒への対応は課題である。 | A |
| | | | クラブ、委員会、文化祭活動を通して、他者への理解を深め、主体的に活動できるよう支援する。 | 生徒会 | 本部会が先頭に立ち、主体的に生徒会活動を行うことができた。ほぼすべての行事でコロナ禍以前の活動に戻すことができた。コロナ禍の苦しい経験から、ICT機器の活用や感染対策などの知識を得ることができ、コロナ禍以前の活動からより幅広い視野を持って活動の計画運営を行うことができるようになってきている。 | A | コロナ禍以前の規模に活動を戻すことは出来てきているが、コロナ禍以前の活動を経験していない生徒たちが運営しているのでイメージを持てていない生徒が多い。今までのやり方を見直すいい機会でもあるので話合いの場を多く設け、計画運営していきたい。 | |
| | | | 思いやりを持って他者と関わったり情報を発信したり出来る心の豊かさを育てる。 | 各学年 | 日常生活を通じて、心の豊かさは育っているがトラブルは皆無ではないので、その都度対応するよう努めた。 | B | 生徒同士の意思疎通でのトラブルがあるため、情報発信やツールの使い方も含め適切な指導が必要である。 | |
| | | | 生徒の状況をきめ細やかに把握して対処する。また、生徒の人権意識の向上を図る。 | 各学年<br>生徒相談 | 精神的に弱い生徒が増えている状況で、学年会や職員会を通し、生徒状況の共有を図り、問題に対処するように心掛けた。人権に関する映画鑑賞を実施し、生徒の人権意識の向上を図った。 | A | 生徒の人権意識の向上を図るために、各教科の授業実践との連携や、映画観賞の計画・立案を継続して実施していきたい。 | |
| 学校運営 | 安心安全な学校 | | 自他を大切にし、主体的に安心・安全・健康的な生活を送ることが出来る生徒を育む。 | 各学年 | 全体的には安心・安全で健康的な学校生活を送れている。 | B | 体調を崩すなど健康的な生活が送れていない生徒が少なからずいる。どうケアしていくかが課題である。 | B |
| | | | いじめの無い、安心安全な学校生活を過ごせるよう関係部署との連携した対応を行う。 | 生徒指導 | 年2回の学校生活アンケートと7月保護者懇談会、12月面談習慣を実施した。各学年、係と状況が共有でき生徒の実態把握を行うことができた。 | A | 今年度同様のアンケート、面談等を通して、また他の係、学年と連携をしながら引き続き生徒の現状把握に努める。 | |
| | | | 不登校や特別支援の必要な生徒へ対応すると共に、職員への理解を深めるために職員研修を実施する。 | 生徒相談 | SSW、大北圏域発達障害サポートマネージャー、SCとの連携を図り、生徒の支援に取り組んでいる。CAPによる教職員向けWSの開催を実施した。 | B | 生徒の抱えている問題に家庭と連携して対応する必要が多くなり苦慮している。先生方との連携を図り、助言をいただきながら対応していきたい。 | |
| | | その他 | 非違行為防止に対する意識を高めるため職員研修を行う。 | コンプライアンス委員会 | 職員会ごとに非違行為防止について、職員の意識の向上を図る話を校長より行った。複数回の事例検討による職員研修により、職員一人一人が自分のこととして捉えることができた。 | B | 風通しの良い職場環境を心掛け、非違行為防止への意識をさらに高めていきたい。 | B |
| | | | 3つの方針を通して、本校のあるべき姿を明確にし、魅力ある学校作りを推進する。 | ビジョン委員会 | 本年度、新たにスクールミッションを策定するとともに、3つの方針も改訂した。それぞれの学習活動、進路活動、生徒会活動、部活動、学校行事等において、岳陽生の直向きな取り組みに応え、職員一同、生徒に寄り添った指導・支援を実践できた。 | A | これからの多様化の時代に向けて、自立・協働・創造の資質と、人権感覚を持った人間を育成していく(スクールミッション)ために、今後も3つの方針の共通認識のもと、魅力ある学校作りに向けて努力していきたい。 | |
| | | | 職員相互に授業見学をし、ICT(BYODを含む)の活用方法を研究する。 | 教務係 | 8月、11月に校内授業見学期間を設定し、研究授業を中心に、延べ40名の先生が授業見学を行った。 | B | 業務が多忙で、授業見学のできない先生もいた。また、11月は日程的に難しい。 | |

達成度　100%:A　80%:B　50%:C　30%:D　20%未満:E

評価は職員による5段階評価の平均値より算出。

4.5以上:A　4.0以上:B　3.0以上:C　2.5以上:D　2.0未満:E